

<歴代実行委員長のごあいさつ>

第1～9回実行委員長 天羽 道子

皆様の熱意により、1996年に第1回安房地域母親大会が開かれ、はからずも実行委員長という光栄な立場を仰せつかりました。常々私は人間の生き方について、社会の在り様について、大きくは地球（環境）について考えて参りましたが、今日の社会があまりにも人間を問うことなしに進んでいることに危惧の念を抱き、或る意味では戦後の悲惨よりも、より深刻な悲惨を見る思いが致しておりました。

人間の生活に、或いは自然に密接で身近な農業や漁業や林業から人びとが離れる現象が起こっています。また、ひたすら高度成長を目指した工業の発展に伴って、人間の生活が無視され、あらゆる生物の生存権も侵される方向へと歯車が廻り、それはますますスピード化し、人間の本来の姿が見失われてしまっているのではないのでしょうか。そして、それは一つにバランスが失われている結果ではないかと思っ参りました。

このバランスを正常にし、一方的に廻り続ける歯車にブレーキをかけて見直すために、母親の発想と母親の声が発せられなければならないと思うのでございます。そのために、先ず母親自らが確かな意識を持ち、賢くなって、発言し行動していかなければなりません。更に、社会の悪の根源でもあるエゴとたたかい克服して、真のしあわせを子どもたちに残していくことが出来ますよう、皆様と共に母親の英知を結集して参りましょう。

第10・20回実行委員長 齊藤 陽子

第一次湾岸戦争が起こり、自衛隊が初めてペルシャ湾へ海外派遣されるという状況の下で、1991年3月に「イラクの平和を願う春のコンサート」を開催しました。このときの実行委員が核となり、1996年1月に第1回安房地域母親大会を開催いたしました。「生命を生み出す母親は 生命を育て 生命を守ります」という日本母親大会のスローガンに賛同し、安房の地にも根付かせたいと思ったのです。私は初回からの呼びかけ人の一人として、企画はみんなで練り、健全会計を守り、広範な方たちと手を繋いで離さない運動を目ざし、様々な課題をテーマに、話し合いの広場を中心として、毎年の大会を続けて参りました。

第10回大会は歌手の太田真季さんによる平和コンサート。第13回大会では、安房南高校出身のせんぼんよしこ監督による映画『赤い鯨と白い蛇』上映とトークショーに、南総文化ホール大ホールがあふれるほどの観客が集まったことは後々まで語り草となりました。第15回大会は、戦没画学生「無言館」館長の窪島誠一郎さんの講演。第20回大会は在日コリアンの歌手・李政美(い・じょんみ)さんの平和コンサート…等々。幅広い団体に呼びかけ、男性も含めた実行委員会を結成して取り組んで参りました。

安房地域母親大会は、30年の歩みの中で、安房地域には中国や朝鮮はじめ世界中の人々と共生や交流の歴史があったことを学んできました。過去の戦争の過ちを反省し、憲法の平和的精神で、とりわけ東アジアの人々との友情の絆を築いていくことは私たちにできる草の根の運動ではないのでしょうか。これからも「交流・共生・平和」の文化を大事にしながら、学んで話し合い、自分の言葉で語り繋いでいく大会を続けていきたいと願っています。

第 13～19 回実行委員長 田中 房江

今年は皆様のご協力により第 30 回安房地域母親大会の開催を迎えることが出来、大変喜ばしいことです。新日本婦人の会館山支部の呼びかけで始まり、新日本婦人の会鴨川ひまわり班・鋸南やまゆり班、安房地域女性連絡会が加わり、さらに回を重ねるうちに、全日本年金者組合安房支部、NPO 法人安房文化遺産フォーラムも構成団体に加わりました。そして、子育て中の若いお母さん達も実行委員として参加してくれている事は、これからの運動の発展が大いに期待できて、心強い限りです。

最近の憲法をめぐる状況には、正規の手続きによらずに解釈を変えて日本を他国の戦争に参加させようとする閣議決定の動きがあります。一方で、2017 年の国際的な核兵器禁止条約の成立、同年の核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN) ノーベル平和賞受賞、2024 年の日本原水爆被害者団体協議会のノーベル平和賞受賞など、核戦争の危機が迫る中で、平和の世論形成も前進しています。

私のように戦争を経験した者にとっては、命より大切なものはありません。命を奪う戦争には強く反対します。世界的にも女性が団結して戦争を取めています。今こそ世界の女性とひとつになって、世界から戦争をなくす運動を進めたいと思います。

第 21～23 回実行委員長 関 恵美子

私は横浜で母親大会に関わっていましたが、2010 年 12 月に館山へ引っ越してから、安房地域母親大会実行委員会に参加しました。翌年 3 月 11 日に東日本大震災があり、岩盤の上に建っている我が家は揺れが少なかったものの、連日、津波や原発事故の報道を見て衝撃を受けました。いてもたってもいられない気持ちになり、放射線衛生学者でテレビ出演していた木村真三さん(獨協大学准教授)のお話を伺いたいと思いました。すでに測定器を車に積んで、福島はじめ東北地方を奔走していらしたのですが、助手の方を通して何回も講演依頼の交渉を重ねました。

そして、2012 年の第 18 回大会に木村さんのお呼びすることができ、原発事故の発生から 1 週間で放射能が長崎まで到達したこと、長崎大学や広島大学などの研究者と協力して「ネットワークで作る汚染地図」を作成したことなどをお聞きしました。なかでも、「汚染地図」の真ただ中にある飯館村の避難所に、沢山の住民が避難していることを突き止め、避難誘導を説得なさったという話には衝撃を受けました。政府より早く、機敏に行動した力に感激し、私たちは会場のみんでカンパを集め、55,000 円の活動支援金を手渡しました。

安房地域母親大会の素晴らしい所は、3 市 1 町の市民が力を合わせ、「子ども達の健やかな成長と暮らし良いまちづくり」に直結したテーマや講師を選び、申し訳ないほど僅かな講演料でお引き受けいただけるように交渉することです。「無茶ぶり！」ともよく言われます。その後も、沢山の講師に来て頂きました。

安房地域母親大会は、戦後 80 年の節目を迎えた今年 11 月、「第 67 回千葉県母親大会」の開催地として、千葉県内各地から沢山の皆様を迎えようとしています。安房地域の力を集め、「ノーベル平和賞」を頂いた日本原水爆被害者団体協議会の児玉三智子さんを講師に迎え、気持ちの良い有意義な大会にしようと頑張っています。皆様のご協力があってこそ！の大会です。どうぞよろしくお願い申し上げます。